

のせみようけんざん

能勢妙見山 (能勢町)

1603年、能勢氏の家鎮として古くから祀られてきた妙見大菩薩を法華勧請し法華経のご守護神として祀り、能勢妙見山がはじまりました。

鳥居は神社に建てるものと認識されていますが、昔は神仏習合といい

神様と仏さまを同じようにお祀りしており、聖域と俗界を隔てるものとして華表(鳥居)が建てられました。

そのような風習から、能勢妙見山は寺院ですが、明治になって神仏分離(1868年)が行われた後にも華表(鳥居)が建てられています。

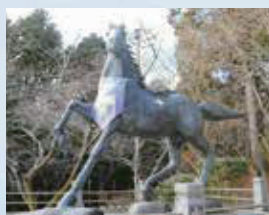
北極星を守護する星として、北斗七星と輔星の8つの星があるといわれています。

また古来より仏神に馬を奉納することは功得甚大といわれ、願い事を叶えてもらうために馬を奉納する習慣がありました。そのため、妙見山を守護する神馬も

8つの星に合わせて境内に8頭存在しています。大小様々な8頭の神馬を、是非探してみてください。



信徒会館「星嶺(せいりょう)」
平成10年4月完成。信徒会館「星嶺」は、大舞台を持つ木とガラスの殿堂。参詣者の心のふれ合いの場として建てられたもの。



能勢妙見山の8頭の神馬

商売や受験など、ここという人生の岐路に立って勝負に出るときには、神馬をお願いすると運氣が上がると言われている。

